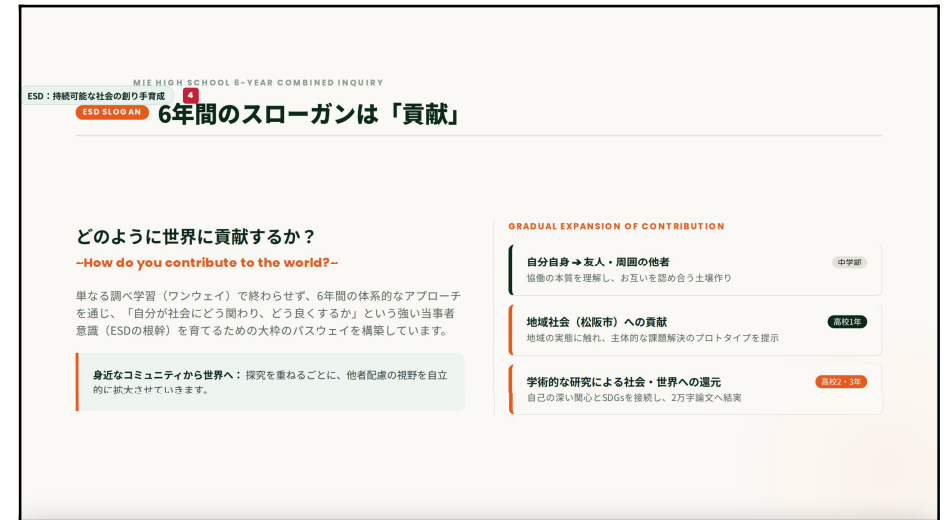




1



2



3



4

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：システム思考・共同解決

118GRADE 10

【高1】松阪の未来を描く「地域貢献プロジェクト」

地域のリアルな課題に挑む4つの実践カテゴリ & 2月の成果発表

Pro1 人口減少

松阪市のリアルなデータを分析し、地域の持続性に向けた戦略的解決策を議論[cite: 1]。

Pro2 Well-being

地域における身近な社会福祉課題の解決と、多様性に富んだ共生社会のデザイン[cite: 1]。

Pro3 魅力の創出

松阪市の持つ豊かな伝統・資源を高め、「魅力的な〇〇」を企画し実現する[cite: 1]。

Pro4 企業課題解決

地元企業が実際に直面しているリアルな課題を、高校生らしい斬新なアイデアで解決[cite: 1]。

仮説から具体的なプロトタイプ還元へ

リサーチ・エクスチェン・仮説構築から、文献調査×夏のフィールドワークを経て具体的な「プロトタイプ」を制作[cite: 1]。2月の「成果発表会」において、進級を控える中学3年生を相手に披露するシステム。

5

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：多角的な学際思考

412GRADE 11-12

【高2・3】「自分」と「社会」を結ぶ学問別ゼミ

個人探究ヘシフトし、問いとSDGsを結ぶ

高校2年からは、協働探究のノウハウを携え、自らの内発的関心に向き合う「個人研究」へ進みます。以下の4つの円が重なる領域から、自分だけの「問い」を模索します。

ゼミ内「縦の相互貢献」スキーム

人文・自然科学・社会科学など、同じ分野を選択した高2・高3が学年を越えて合同ゼミを実施（年5回の対話）。教員は主導者ではなくファシリテーターとして生徒の自律的な教え合い（相互貢献）を見守ります。

個人探究を駆動する「4つの重なり」[cite: 1]

好きなこと

興味・関心があり心が弾むこと[cite: 1]

得意なこと

自分の持つスキルを発揮できること[cite: 1]

価値観

人生の中で大切にしたい信条[cite: 1]

社会の要請

SDGsなどの社会が必要とすること[cite: 1]

6

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：伴走と協働の精神

47PEER LEARNING

【縦のつながり】高1・高2「探究お悩み相談会」

関係性の「継続」がもたらす高い信頼と実践対話

多くの探究が「単年」で断絶・リセットされる中、本校では中3の2月発表会でポスターセッションを聴講した高1生が、7月の夏のフィールドワーク直前、最も課題に直面し不安を抱えるタイミングで先輩と対話しアドバイスを受けられます[cite: 1]。

最も切実なフェーズでの縦対話：

地域への飛び込み方、アンケート設計、アプローチなど当事者同士ならではのリアルな悩みに耳を傾けアドバイスする[cite: 1]。

先輩による他者貢献の体現：

後輩の不安に寄り添う経験そのものが、生徒の「他者に貢献する態度」を豊かに育みます。

自律的な「ブース対話」マッチングシステム

01 高1は、事前にアドバイスを聴きたい先輩のブースを主導的に3箇所セレクト。

02 当日は15分×3スロットのタイムスケジュールでローテーションを回す自律ブース運営。

03 課題解決の「先輩から後輩へのトン」が最も身近に作用する機会。

7

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：最高到達点への挑戦力

4THE PINNACLE

【高3】個の限界を極める「卒業研究発表会」の舞台

THESIS DEPTH

2万 字の学術論文

他校の一般的なグループワークを遙かに凌駕する個の問い。徹底した調査に裏打ちされた要約と成果[cite: 1, 3]。

発表規模

91 名の個人研究成果

高3生全員（91名）が、文、法、経済から医、AI、工、芸術まで16の全学術分野に挑む圧倒的成果[cite: 2]。

ICTを駆使した自律的な10部屋同時運営

研究発表会は、6号館の10部屋に学問分野を配分して、同時に行われます[cite: 2]。生徒司会の進行台本に従って、主体的に発表が行われます[cite: 2]。

1人持ち時間10分の弾力的かつ高度なプレゼン[cite: 2]

発表者はiPadをプロジェクターに直接画面ミラーリングして発表（発表6分＋質疑2分＋交代）[cite: 2]。教員の指示を待たず自律的なタイムマネジメントを行います[cite: 2]。

8

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：メタ認知・知の継承

4

LEARNING CYCLES

【意義と機能】知の循環を生むラーニングシステム

「終わりの儀式」にしない、学校全体を巻き込む知のボタンパス

1

高3生による発表

iPadからのデジタルミラーリング。2万字で極めた深い仮説検証を披露[cite: 2, 3]。

2

下級生の参画

高1（84名）、高2（96名）がオーディエンスかつ評価者として参画[cite: 2]。

3

客観的なルーブリック

配布された「要約集」をもとに動機・仮説・実施、考察、発表の5観点を評価[cite: 2]。

4

ボタンとメタ認知

客観的评价者になることで自らの探究を分析。「次は自分たち」の基準を受け取る。

この相互評価サイクルが、学校を一つの「持続可能な学習共同体」へ進化させます。

9

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：学びのサステナビリティ

11 12

SUSTAINABLE DATABASE

【本校の独自性】学校に蓄積される「知のストック」

「使い捨て」の探究から「サステナブルな」探究へ

多くの探究が「発表を終えたら活動もデータも失われる」なか、本校では先輩が獲得したアイデアと探究の果実を、学校全体の共有財産にするシステムを構築しています。

研究・探究の継承

先輩が2万字で到達した「終着点」を、後輩の「スタートライン」とし問いを深く引き継ぎます[cite: 3]。

地域課題シンクタンク

毎年積み上がる松阪市の実情と生徒の課題解決策。学校自身が街の強固なデータベースになります。

知のストック（共有財産）の概念

先輩たちが残した「論文要旨データベース」や「過去のフィールドワークアプローチ履歴」に下級生がいつでもアクセス。自らの問いの精度を高めます。

DATABASE

SHARED ACADEMIC ASSET

10

MIE HIGH SCHOOL 6-YEAR COMBINED INQUIRY

ESD：グローバルな課題解決力

4 11 12

CONCLUSION

ローカルからグローバルへ：本校が目指すESD

6-YEAR SYSTEMIC FLOW

1. 肌で感じる（中学：まったん）

身近な地域の大人と関わり、当事者意識の確かなベースを築く[cite: 1]。

2. 協働し提案する（高1：地域貢献）

松阪の課題に対し協働して仮説検証を回し、プロトタイプを提案する[cite: 1]。

3. 学問で解決し、循環させる（高2・3：個人研究）

2万字論文の執筆と卒業研究発表会を通じた、持続的な知恵のボタン[cite: 1, 2, 3]。

地域への愛着（ローカル）を、世界的な視座（グローバル）での課題解決力へと昇華できるのが、三重高校六年制最大の強みです。

2) パネルディスカッションに向けて

中高6年間の履のつながりとし知の循環システムがいかに生徒の主体性を育て、持続可能な社会の創り手を育成するか。授業デザインと同様に、本プレゼンテーションにもたくさんの「余白」を残してあります。この後のパネルディスカッションで、皆様とさらに深い対話ができることを楽しみにしております。

11